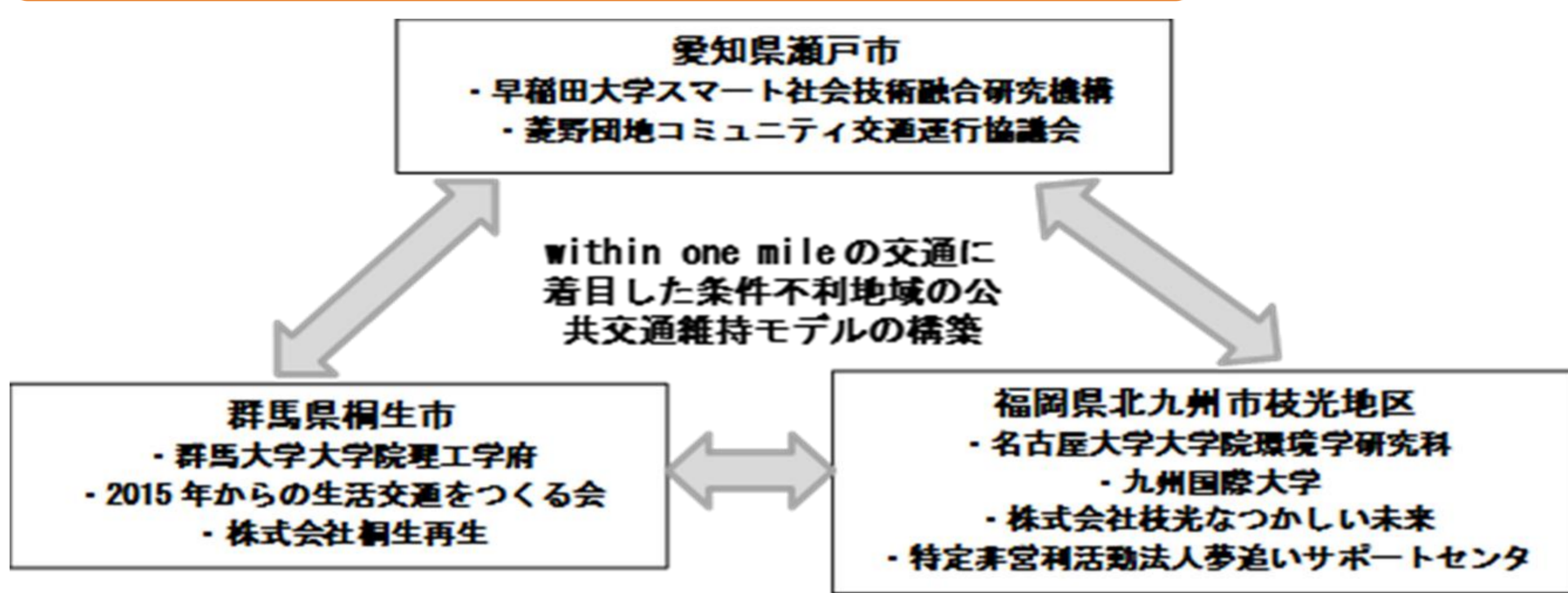


within one mileの交通に着目した 条件不利地域の公共交通維持モデルの構築

背景と目的

- 地域公共交通は、モータリゼーションの進展により需要が減少し、さらに近年では運転手の高齢化や燃料費の高騰といった要因によるサービスの低下により、いわゆる「負のスパイラル」による衰退の一途をたどっている。
- 本研究では持続可能な公共交通維持モデルの一つとして、これまでの地方自治体が主導し、交通事業者に委託する形式が多かった公共交通において、住民主体あるいは住民密着型の公共交通モデルを構築することを目的とする。

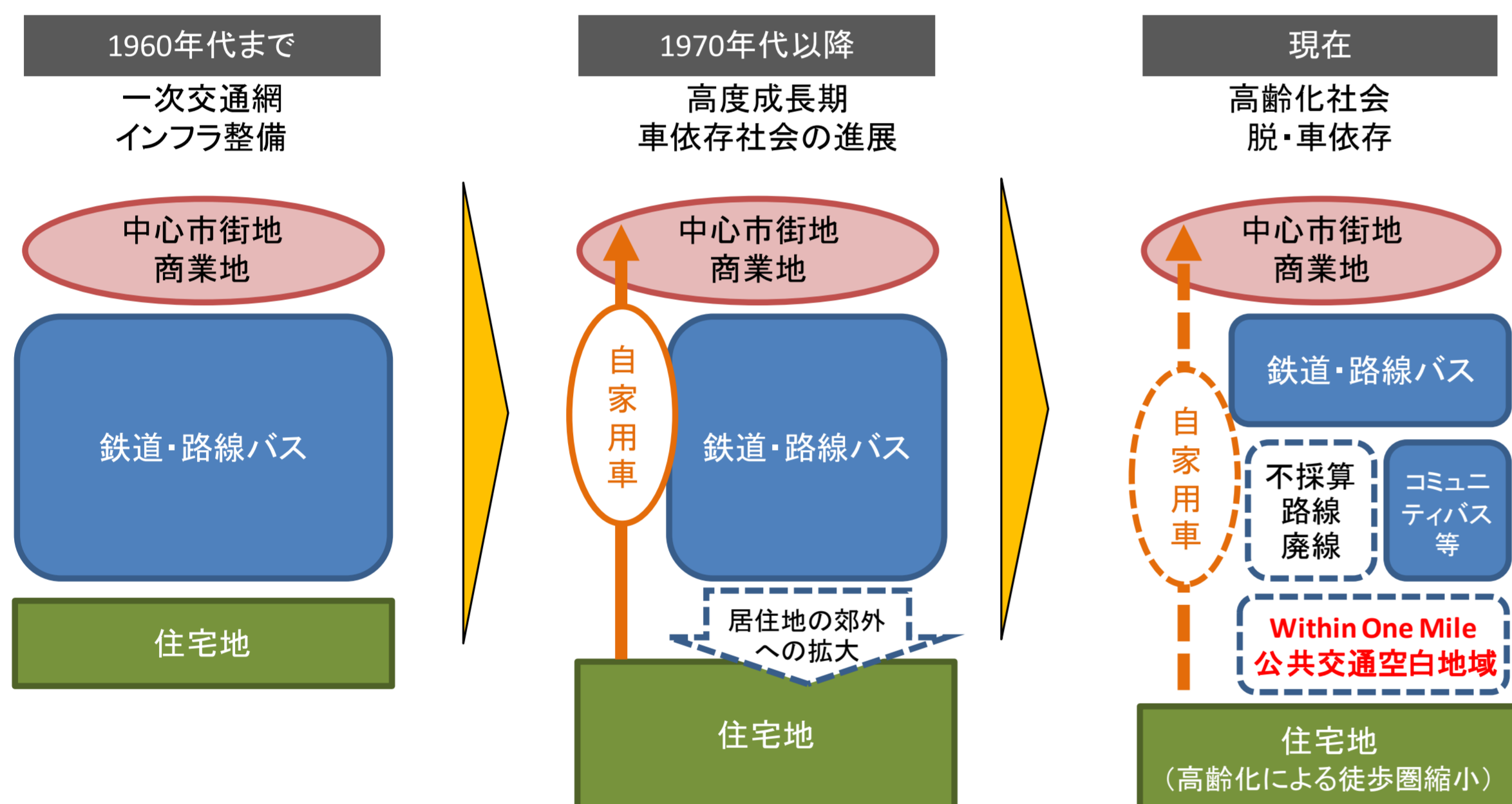
組織



1st Stageでの実施内容

1. 公共交通維持モデルの構築に向けたストラテジー作り
2. 各グループ間で相互視察を実施（情報共有、共通問題点の抽出）
3. 「くらしの足をみんなで考える全国フォーラム2017」での成果発表

地域交通の現状



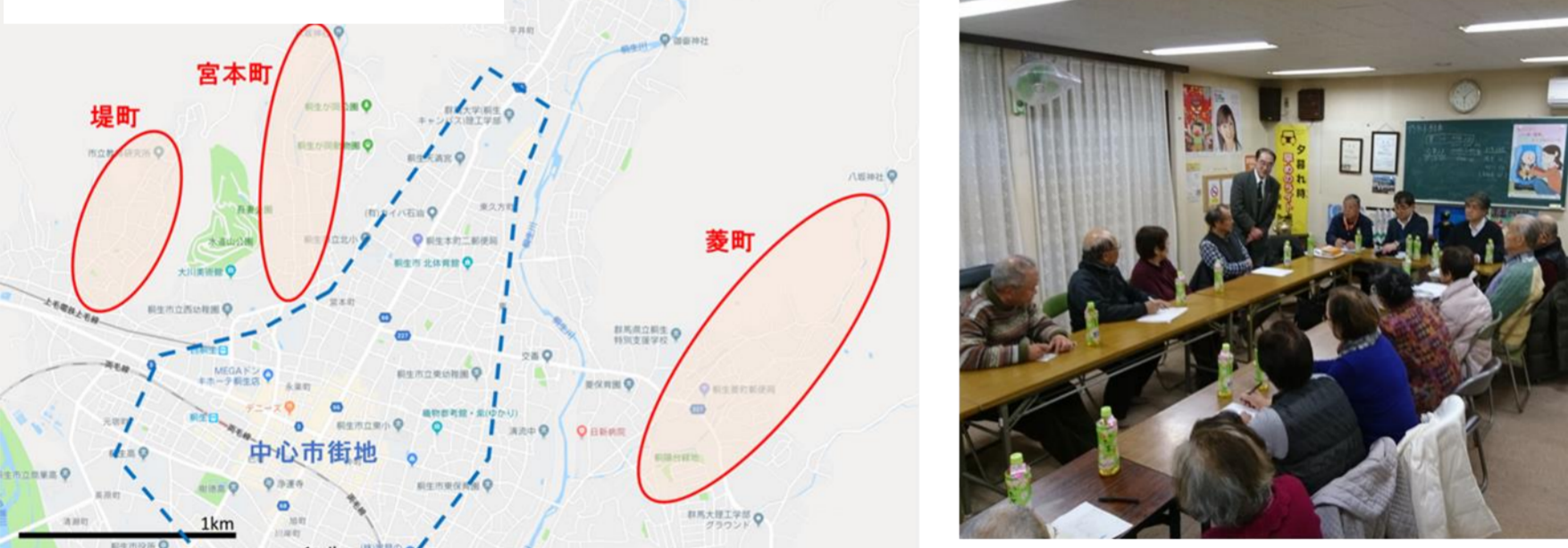
公共交通設計の新しい視点

新しい視点に立った公共交通維持モデルの構築

地域共有物としての公共交通の意識への転換
住民自らが作る公共交通へ
地域企業のCSR活動の対象としての価値づけ
移動手段の提供から地域の価値の提供に

研究内容

【桐生市】

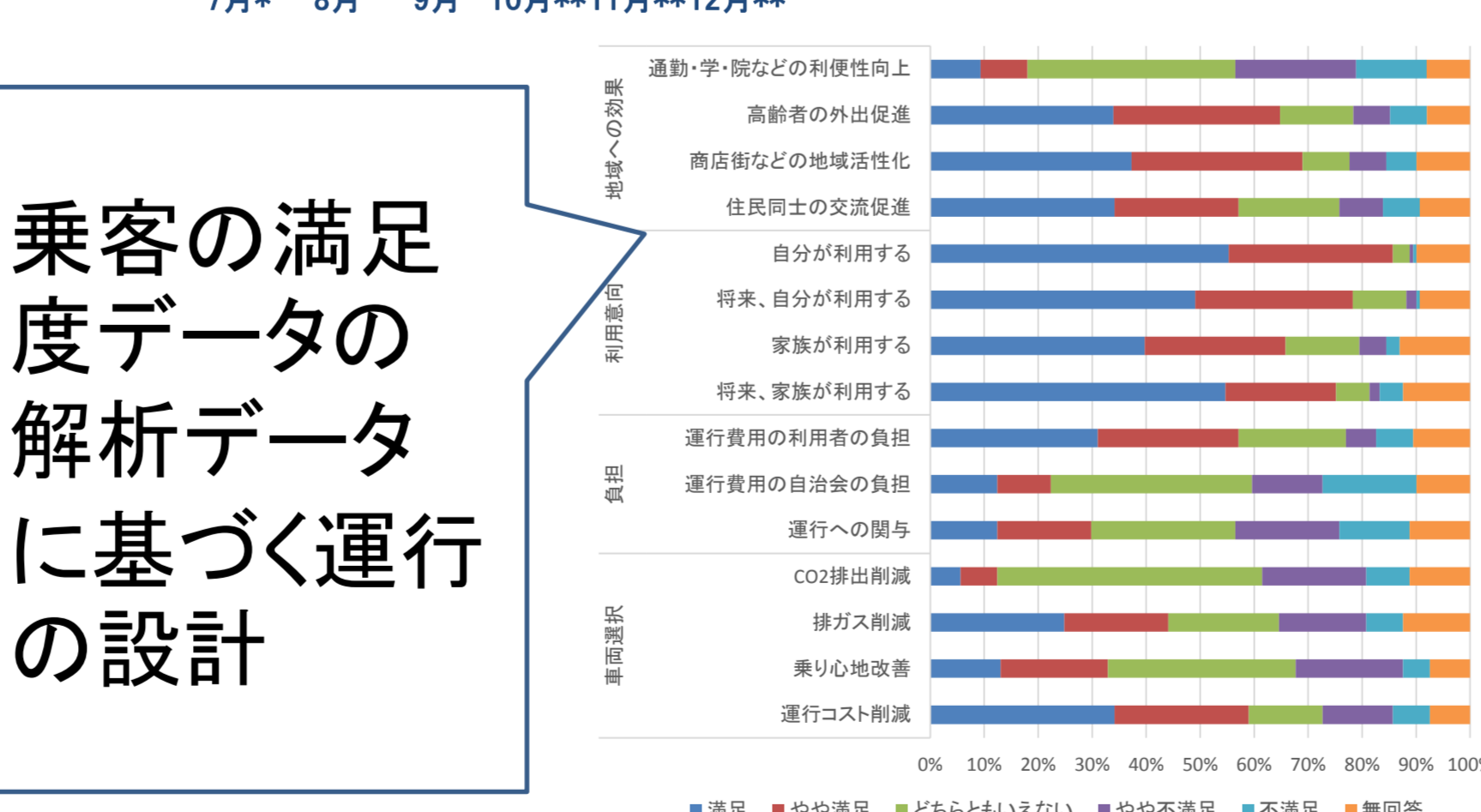
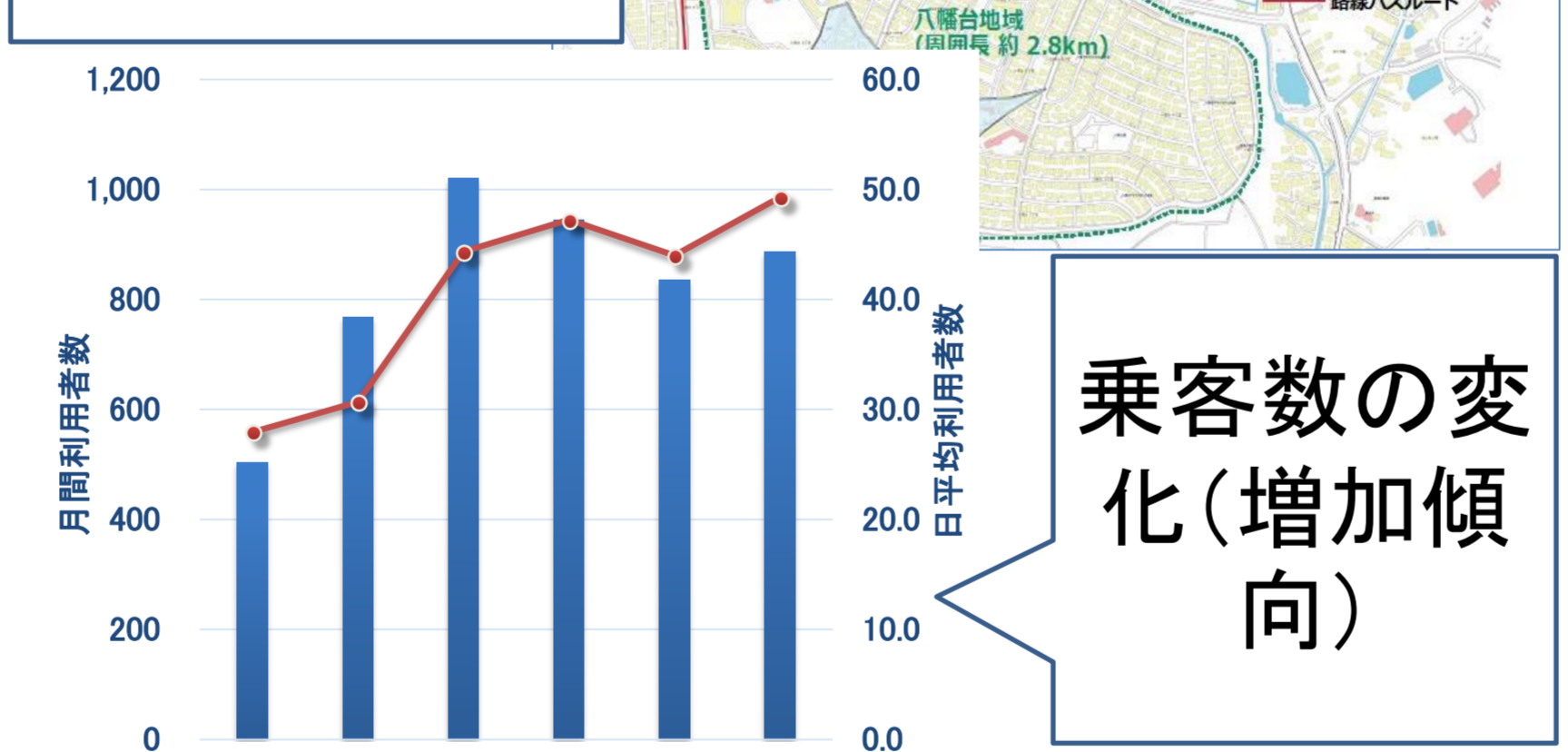


北九州市や瀬戸市の成果の共有
⇒ 桐生の運行設計への応用
複数地域での情報共有
3町会の合同会議 ⇒ 課題の共有
⇒ 共同歩調で地域実証試験



第9回EST交通環境大賞奨励賞、
COOL CHOICE LEADERS AWARD優秀賞
の受賞

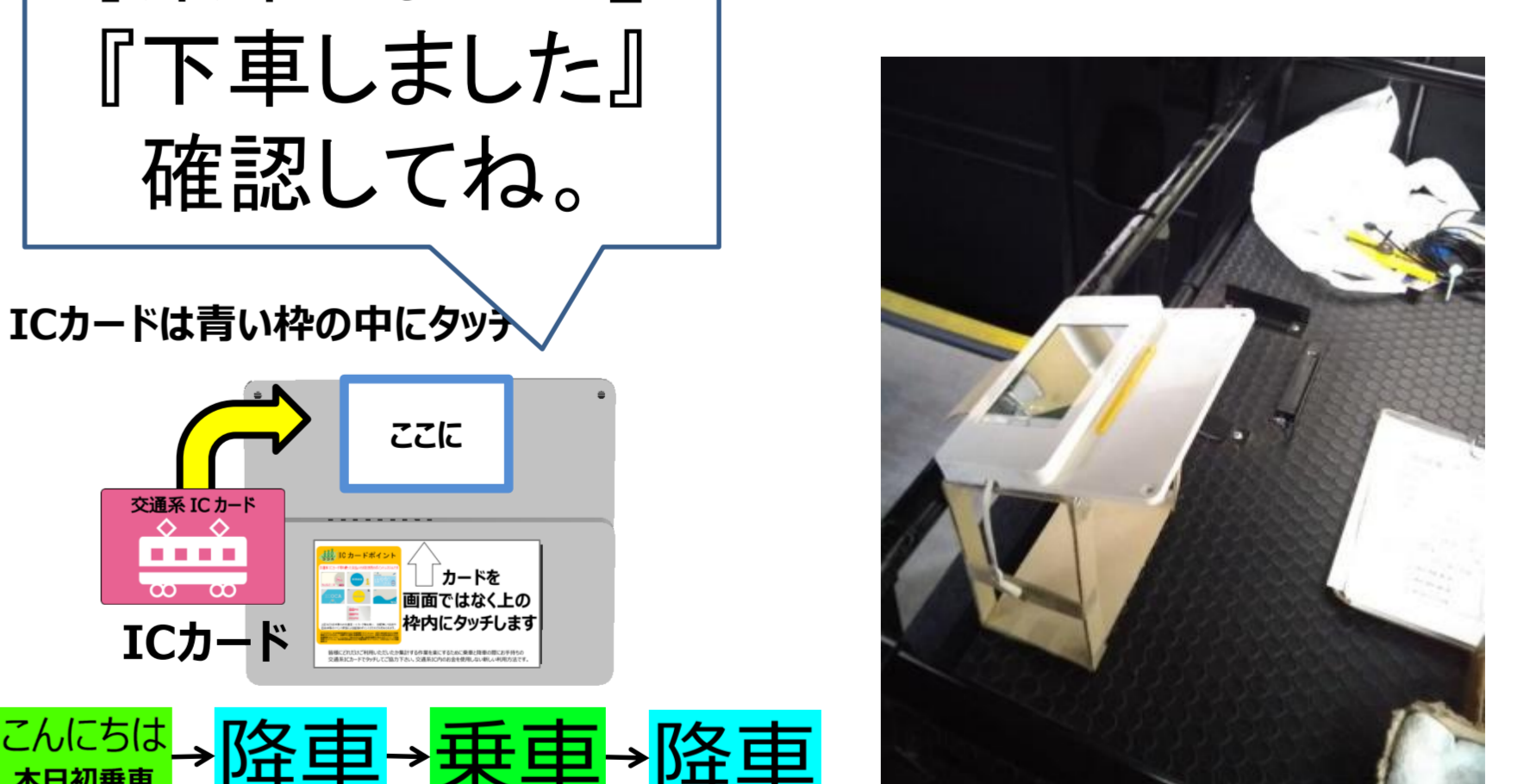
【瀬戸市】



【北九州市】

コミュニティ交通による低炭素化制度導入
ていたんポイント

器械から音声アナウンスがあります。
『乗車しました』
『下車しました』
確認してね。



個人情報保護への配慮、システムに個人情報が蓄積されない、利用申込書との照合で生活移動を把握

1st Stageでは、研究の全体的な進め方の方向性を各グループが共有し、グループ間の相互視察を開始。2nd Stageでは、各地域の取り組みを深化した。それによってW-BRIDGEモデルの構築に繋がる具体的な成果を得ることができた。特に、地域共有物としての公共交通や、住民自らが作る公共交通への意識変容、地域企業のCSR活動の対象としての価値づけ、移動手段の提供から地域の価値の提供への転換、繋ぐ交通から地域を巡る交通への転換が、地域公共交通の維持に重要な視点であることが確認できた。